

1. 開催概要

展覧会名	生誕 100 年 ジャクソン・ポロック展		
会 期	平成 23 年 11 月 11 日～平成 24 年 1 月 22 日 平成 24 年 2 月 10 日～5 月 6 日		
開催 施設名	愛知県美術館 東京国立近代美術館	入場者数	42,531 人（愛知県美術館） 123,301 人（東京国立近代美術館）
(開催概要)			
1. 展覧会内容と評価 アメリカが生んだモダン・アートの巨匠、ジャクソン・ポロックの生誕 100 年を記念して開催した本展では、国内外の主要美術館などが所蔵する油彩、素描、版画 62 点、彫刻 2 点の計 64 点を展示した。作品が世界中の美術館に分散して所蔵されており、1 点の評価額が非常に高いことから何度も試みられてきたのに実現することのなかった回顧展を初めて日本で実現したことに専門家や美術ファンから高い評価を受けた。なかでも、1976 年にイランに収蔵され、直後のイラン革命以来門外不出となっていた、作家成熟期の大作《インディアンレッドの地の壁画》はこれまでアメリカで開催された大回顧展にも出品されることがなかったため国内外の関心が高く各会場で、外国人の入場者が通常より目立った。また、アンケートには、「作家は知らなかったが、(テヘランの作品を掲載した)ポスターに惹かれて会場に来た」、「初めて作品をみたが、その迫力に嘖然として立ち尽くしてしまった」などの好意的な感想が多数寄せられ、日本ではなじみの薄かった偉大な画家の業績を広く知らしめるという当初の目的は果たせたと考える。また、企画者として、大島徹也・愛知県美術館学芸員が「第 7 回西洋美術振興財団賞」の学術賞を受賞した。受賞理由として「現代絵画の旗手として有名なポロックの回顧展を、限られた条件の中で、日本で初めて実現させたこと、しかも初期から晩年まで、ポロックの全体像を俯瞰できる模範的な作品選択と、展示構成などは高く評価できる」と述べられたように、担当学芸員の長年の研究が目覚ましい成果となって現れたことは特筆に価する。			
2. 入場者数 当初 300,000 人を見込んでいたが、両会場で 165,832 人とどまった。今回の展覧会で初めて画家を知った若い層も多く、現代作家ゆえの一定のポピュラリティによるものと考えられる。			

2. 補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

1. 展示作品の質・量の充実

美術品補償制度の適用により、“破格の高値”で知られるポロックの国内外に所蔵される代表作品を借用することが可能になり、欧米の美術館を凌ぐ大規模な生誕 100 年記念展になった。特にイランのテヘラン現代美術館所蔵《インディアンレッドの地の壁画》の評価額は 2.5 億米ドルと群を抜いて高く、同制度の適用を受けなければ主催者が保険料を負担することは難しく借用を断念せざるを得ない状況であった。同制度によって、欧米の美術館ですら回顧展で展示したことの無い画家の傑作を日本で展示することができ、国内外から高い評価を受けることができた。

2. 高校生の入場無料化

すでに実施している中学生以下の入場料無料措置に加え、国民への実質的な還元策として、東京展では平成24年2～4月の毎週日曜日、2月11日（祝）、3月20日（祝）、4月30日（祝）の計15日間は高校生も入場料を無料にした。無料期間中の高校生入場者は540人（当初4,000人目標）にのぼり、一定の役割を果たした。

3. 教育普及活動等の充実

20世紀後半の美術を大きく変えたといわれるポロックの芸術の奥深さを広く伝えるため、両会場で記念講演会、シンポジウムなどを積極的に開催した。

【愛知展】※講師・パネリストの敬称略

- 記念講演会「ジャクソン・ポロックーその芸術と人生と遺産」平成23年11月12日
講師：ヘレン・A・ハリソン（ポロック＝クラズナーハウス・アンド・スタディセンター、ディレクター）参加人数：128人
- シンポジウム「ジャクソン・ポロックがいま私たちに語りかけること」平成24年1月7日
パネリスト：藤枝晃雄（武蔵野美術大学名誉教授）小西信之（愛知県立芸術大学准教授）小池隆英（画家）岸本吉弘（画家）モデレーター：大島徹也（愛知県美術館学芸員）参加人数：260人
- 嶋本昭三パフォーマンス（ポロックに強い影響を受けた日本の具体美術協会の作家によるパフォーマンス）平成23年11月11日 参加人数：278人

このほか、愛知県美術館担当学芸員によるギャラリー・トーク6回、企画者によるレクチャー4回を開催。また、会期中、愛知県内全小、中学校に展覧会のみどころを記載した無料券76万枚を配布し鑑賞をうながした。ポロックの生涯や芸術をよりわかりやすくレクチャーするために「ポロック二人だけのアトリエ」の上映会を開催した（参加人数812人）

【東京展】

- 記念講演会「Painters' Round-Table: What is JP? 画家たちのポロック」平成24年2月12日
講師・パネリスト：堂本右美、岡村桂三郎、小林正人（いずれも画家）、中林和雄（東京国立近代美術館企画課長）参加人数：125人
- シンポジウム「今ポロックの何を見るのか」平成24年3月24日
講師・パネリスト：池上裕子（神戸大学准教授）沢山遼（武蔵野美術大学講師）林道郎（上智大学教授）中林和雄（東京国立近代美術館企画課長）参加人数：147人
- 「ジャクソン・ポロック展」先生のための鑑賞講座（東京都図画工作研究会との連携を元に小学校と当館との連続授業を行い、その成果を発表）平成24年2月19日
講師：中林和雄（東京国立近代美術館企画課長）山田和弘（千代田区立お茶の水小学校教諭）榮美樹（港区立高輪台小学校教諭）河瀬昇（東京都立向丘高等学校教諭）参加人数110人

このほか、文化交流の促進を目指し、外国人来場者のために、英文のパンフレットを作成して会場内で配布した。

3. 事故の有無・安全管理に関する事項等（軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む）

万全の体制で輸送・展示作業を行い、会期中も警備・監視要員を十分に配置した結果、ヒヤリハット事例も含め、事故は全くなかった。

※ヒヤリハット事例とは、事故には至らなかったものの、事故となってもおかしくなかった一歩手前の事例をいう。文字通り突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの。

4. 紹介事例・今後の改善点等

16～19世紀の西洋絵画に比べ、20世紀絵画、画家は日本ではなじみが薄く入場者数も伸びない。うえ作品の評価額が非常に高く経費が膨大にかかる。そのため、美術史上、欠かすことのできない画家が多数いるのにもかかわらず、20世紀、とくに戦後の画家の大規模な展覧会は日本ではあまり開かれていない。ジャクソン・ポロックもその一人であり、本展の開催には国内外の美術関係者から大きな関心と賛同を得た。作品の貸出機関も日本での初の大規模展開催に好意的で、東日本大震災を理由に貸出をキャンセルするところではなかった。また、テヘラン現代美術館所蔵の作品と一緒に展示されることについても、政治的には対立関係にある欧米の美術館からは全く苦情はなく、むしろ、作品に伴って来日した欧米の学芸員はテヘラン現代美術館所蔵の作品を見ることができたことを喜び、テヘラン現代美術館の学芸員とも積極的に会話し交流を深めていた。本補償制度の適用によって実現した本展覧会は「広く国民にすぐれた美術品鑑賞の機会を提供する」という本制度の目的を達成しただけでなく、芸術を通じて、政情を越え人々が心を通わせる貴重な場を提供したことで、大きな成果を残したと考える。

会期中の一定期間の高校生無料化については、本展関連印刷物、公式HP、読売新聞紙面で告知し、印刷物については関東圏の高校に配布し、周知に努めた。また、補償制度適用の展覧会であることは、本展ポスター、チラシ、公式HPおよび本展会場入口看板に明記し、周知を図った。

5. 展覧会の収支決算書

主催者名

愛知県美術館、読売新聞社

(収入)

区 分	決算額
展覧会収入・その他の収入	42,070,628
共催者負担	75,269,498
収入総額	117,340,126

(支出)

区 分	決算額
企画準備等基本経費	83,338,375
設営・運営等会場関係経費	34,001,751
支出総額	117,340,126

5. 展覧会の収支決算書

主催者名

東京国立近代美術館、読売新聞社

(収入)		(支出)	
区 分	決算額	区 分	決算額
展覧会収入・その他の収入	240,565,315	企画準備等基本経費 (注)	152,683,414
共催者負担	41,793,169	設営・運営等会場関係経費	129,675,070
収入総額	282,358,484	支出総額	282,358,484

注) 美術品保険料は補償制度の導入により、当初想定額よりも3000万円、軽減された。